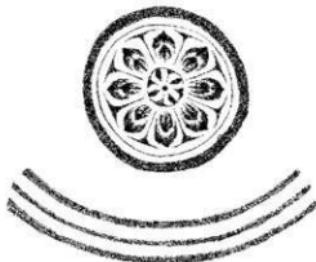


宮城県仙台市

郡山遺跡 41

— 令和2年度発掘調査概報 —



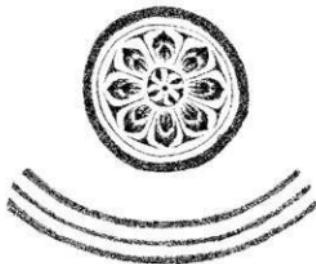
2021.3

仙台市教育委員会

宮城県仙台市

郡山遺跡 41

— 令和2年度発掘調査概報 —



2021.3

仙台市教育委員会

序 文

日頃より仙台市の文化財行政に対しご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。市内には数多くの遺跡が確認されており、遺跡に眠る埋蔵文化財はその時代に住んでいた人々の痕跡を伝えるものです。当教育委員会としましては皆様のご理解とご協力を得て、大切な文化財を保存し、後世に伝え、また活用を図り、その価値を生かしていく所存です。

ここに報告いたします郡山遺跡は、地方官衙としてはわが国でも最古段階の重要な遺跡です。郡山遺跡の発掘調査事業は、幻の城柵としての一端をあらわした昭和54年の最初の調査から41年目を迎えました。その後継続的に実施してきた発掘調査により、古代の文献に記録のない“幻の城柵”はまさに“甦る城柵”として私たちの前に姿を現してきました。また、その価値が明らかになったことで、平成18年には国史跡「仙台郡山官衙遺跡群－郡山官衙遺跡 郡山廃寺跡－」として指定されています。

令和3年3月11日で、東北地方に大きな爪痕を残した東日本大震災からちょうど10年が経ちました。建物の復興は進み、郡山遺跡内での個人住宅建築、宅地造成等に伴う調査件数は増加傾向にありました。そのような中で今年度は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、主に文化財活用関係の行事や見学などを見送るケースも相次ぎました。しかしながら新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じながら史跡内の範囲確認調査等の野外調査は何とか実施することができました。本書はその調査結果を報告・公開するものです。

発掘調査を継続できましたのも皆様のご協力があってこそです。これまでの文化財の調査成果が遺跡保護や整備、そして私達の生活文化に寄与することを願ってやみません。今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年3月

仙台市教育委員会
教育長 佐々木 洋

例　　言

1. 本書は、国庫補助事業における市内遺跡調査のうち、郡山遺跡の史跡内の範囲確認調査に加え、郡山遺跡内の個人住宅建築工事に関連した発掘調査の報告である。
2. 本概報は調査調整係と仙台城史跡調査室の協力を得て整備活用係がまとめた。また執筆と各作業は以下のように分担し、編集は庄子と元山が行った。

第1・2章III～VI　庄子裕美　　第2章I・II　須貝慎吾　　第3章　元山祐一
遺物実測図作成・トレース・図版作成：郡山遺跡発掘調査事務所作業員
遺物観察表作成：庄子、元山　　遺物写真撮影：向田文化財整理収蔵室作業員
遺構図トレース・図版作成：庄子、須貝、郡山遺跡発掘調査事務所作業員
遺構註記表作成：庄子、元山、須貝
3. 本書の内容は既に公開されている遺跡見学会資料や各種の発表会資料に優先する。
4. 郡山遺跡第306次発掘調査の実施にあたり、株式会社協大工業からご協力をいただいた。
5. 本書に係る出土遺物や実測図、写真などの資料は仙台市教育委員会が保管している。

凡　　例

1. 断面図の標高値は、海拔高度を示している。但し、海拔高度及び座標系は、平成23年（2011）3月11日の東日本大震災以前の値を使用している。
2. 第2章の図中に示した座標系は、郡山遺跡内に昭和56年に設定し、平成8年度に改訂した任意の座標系（X=0、Y=0を通る磁北線（1984年頃の偏角で、真北から6°44'7"西傾）で表記している。また、第2章IVとVの図中では対照のため日本測地系の座標値を記している。
3. 第2章の文中的方位は、真北を基準としている。また、図中の方位に「☆」を付したものは真北を示し、これ以外の方位は座標系に沿った磁北を示している。
4. 遺構の略称は次のとおりである。郡山遺跡の遺構番号はこれまで調査された調査区を通しての番号順であるが、ピットは調査区毎としている。

SA：柱列・材木列　　SD：溝跡　　SK：土坑　　P：ピット・柱穴
5. 遺物の略号は次のとおりである。

C：土師器（ロクロ不使用）　　D：土師器（ロクロ使用）　　E：須恵器　　K：石製品
N：鉄製品　　P：土製品
6. 土師器実測図における網掛けは、黒色処理を示している。その他の付着物や痕跡は図中に表記している。
7. 遺物観察表中の法量で（ ）が付いた数字は、図上で復元した推定値ないし残存値である。
8. 遺物写真的縮尺は、遺物図版に掲載した同一個体のそれに準ずる。写真掲載のみの遺物は、特別な記載がない限り3分の1で掲載している。
9. 遺構観察表中の土色については「新版標準土色帖」（小山・竹原1989）を使用した。
10. 第1図は国土地理院発行の1:25000「長町」を、また第2図は仙台市発行の「2千5百分の1都市基本図」を、各調査区位置図は「郡山遺跡発掘調査報告書 総括編(1)」の「付図2　Ⅱ期官衙全体図」を基に作成し使用した。

目 次

第1章 はじめに

I. 調査体制	1
II. 調査計画と実績	
1. 調査計画	1
2. 調査実績	1

第2章 郡山遺跡

I. 第302次発掘調査	
1. 調査経過と調査方法	4
2. 基本層序	4
3. 検出遺構と出土遺物	4
4. まとめ	6
II. 第303次発掘調査	
1. 調査経過と調査方法	8
2. 基本層序	8
3. 検出遺構と出土遺物	8
4. まとめ	11
III. 第304次発掘調査	
1. 調査経過と調査方法	15
2. 基本層序	15
3. 検出遺構と出土遺物	15
4. まとめ	17
IV. 第305次発掘調査	
1. 調査経過と調査方法	18
2. 基本層序	20
3. 検出遺構と出土遺物	20
4. まとめ	21
V. 第306次発掘調査	
1. 調査経過と調査方法	27
2. 基本層序	27
3. 検出遺構と出土遺物	27
4. まとめ	29
VI. 第307次発掘調査	
1. 調査経過と調査方法	33
2. 基本層序	33
3. 検出遺構と出土遺物	33
4. まとめ	33
第3章 調査成果の普及と関連活動	36

第1章 はじめに

I. 調査体制

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 文化財課長 長島栄一

整備活用係 係長 工藤慶次郎 主査 元山祐一 総括主任 高橋勝枝

主任 堀越研、佐藤文征 主事 庄子裕美、五十嵐愛

調査調整係 係長 平間亮輔 主査 近藤勇亮、栗和田祥郎 主任 及川謙作、小浦真彦、尾形隆寛

主事 澤目雄大、妹尾一樹、相川ひとみ、柳澤楓、木村恒 専門員 斎野裕彦

会計年度任用職員 篠原信彦

本報告書に掲載する各調査の担当職員は以下の通りである。

郡山遺跡第302・303次調査：須貝慎吾・栗和田祥郎

郡山遺跡第304～307次調査：庄子裕美・元山祐一

発掘調査・整理作業を適正に実施するため「郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会」を設置し、指導・助言を受けていたが、東日本大震災以降、復旧に伴う発掘調査を優先せざるを得ない状況であったことから、調査指導委員会については、震災後はやむなく休会としている。今年度は委員の選定を行った。令和3年度以降については、郡山遺跡と陸奥国分寺跡等の遺跡内での発掘調査の状況を踏まえて、委員会を再開する予定である。

II. 調査計画と実績

1. 調査計画

令和2年度に計画した本書掲載の調査は、国庫補助事業である「市内遺跡発掘調査」の一部として計画し、郡山遺跡を対象とした。

郡山遺跡では第5次5ヶ年計画終了後に平成17年度から補足調査を実施してきたが、個人住宅建築に関わる調査と郡山遺跡の史跡整備に伴う範囲確認調査を実施した。

発掘調査総経費は26,260,000円（国庫補助金額13,130,000円）の予算で計画し、当初は郡山遺跡の個人住宅対応に5,634,161円、郡山遺跡の範囲確認調査に2,184,520円、「仙台平野の遺跡群」として郡山遺跡以外の市域全体の個人住宅対応に5,655,752円、出土木製品の保存処理に418,000円、仙台城跡調査に12,367,567円とした。これによって本書の掲載に関わる発掘調査の実施計画を立案した。

調査名	調査地区	調査予定期間	調査予定期間	調査原因
郡山遺跡	宮町の原など5箇所	300m ²	令和2年4月～令和3年3月	個人住宅建築
郡山遺跡	日御碕南中乾部	約50m ²	令和2年8月～9月	範囲確認調査
郡山遺跡	日御碕南門北側	約60m ²	令和2年8月～9月	範囲確認調査

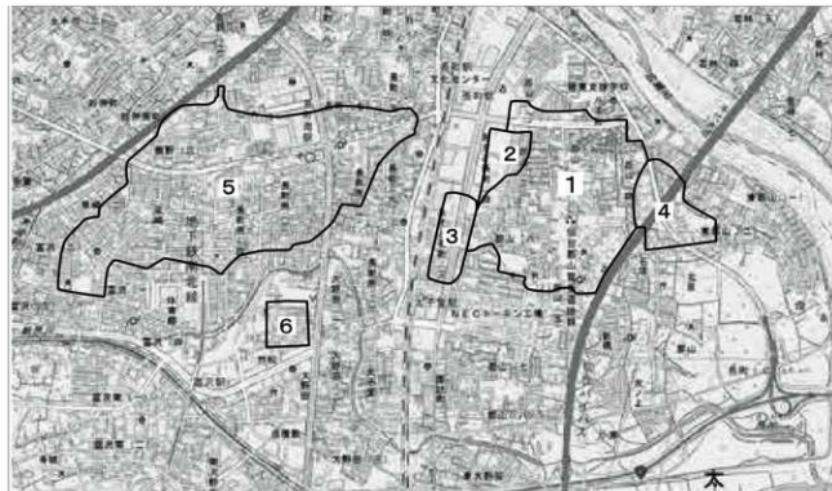
表1 令和2年度発掘調査計画

2. 調査実績

郡山遺跡については、令和2年度は5箇所の調査を実施した。そのうち本報告書では、国庫補助事業の対象となる個人住宅建築に関わる調査である令和元年度実施の第302・303次調査に加え、第304・307次調査と範囲確認調査の第305・306次調査の報告を行う。なお、令和2年度中に実施した第308～310次調査の詳細については来年度以降の報告とする。

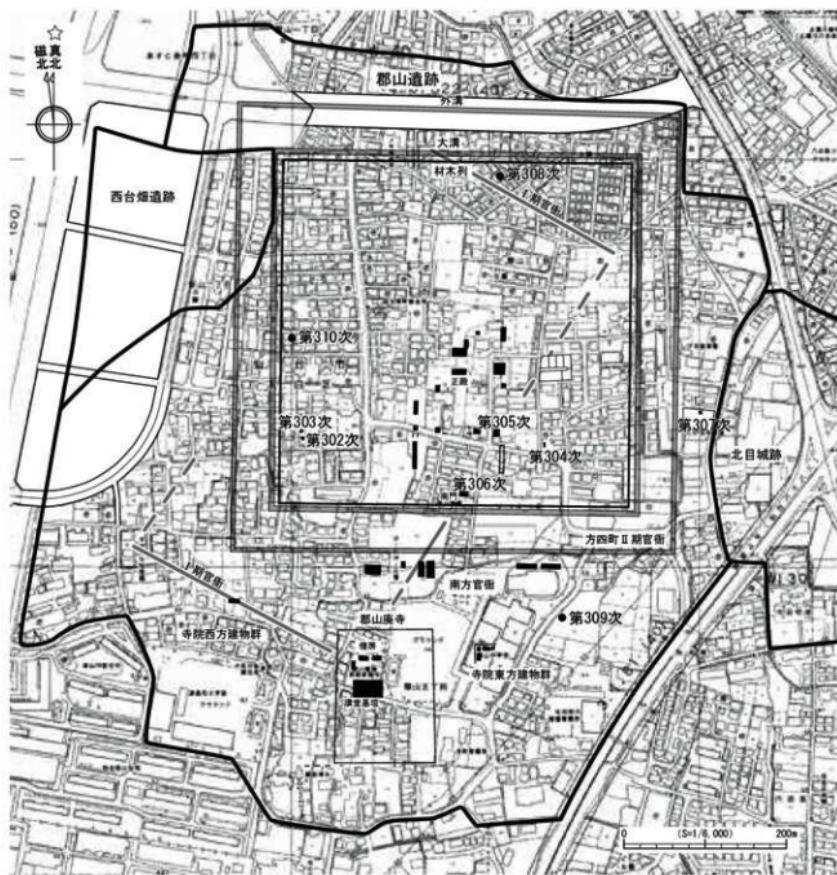
調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	調査原因	対応
郡山遺跡第302次	日隈官衙西部	16af	令和元年12月10日～12月25日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡第303次	日隈官衙西部	14af	令和元年12月10日～12月23日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡第304次	日隈官衙南東部	13.2af	令和2年7月20日～7月21日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡第305次	日隈官衙中原部南東側	50.3af	令和2年8月24日～9月29日	範囲確認	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡第306次	日隈官衙南門北側	60af	令和2年8月24日～9月29日	範囲確認	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡第307次	郡山遺跡東端	9.9af	令和2年10月27日～10月28日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡第308次	日隈官衙北東部	22.6af	令和2年11月4日～12月31日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡第309次	郡山遺跡南東部	14af	令和3年2月24日～2月25日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡第310次	日隈官衙西部	27.9af	令和3年3月9日～3月10日	個人住宅建築	震災復興民間文化財免振調査 助成事業

表2 令和2年度発掘調査実績（一部前年度実績を含む）



1. 郡山遺跡 2. 西台畠遺跡 3. 長町駅東遺跡 4. 北目城跡 5. 富沢遺跡 6. 大野田官街遺跡

第1図 遺跡位置図



第2図 郡山遺跡調査地点位置図

第2章 郡山遺跡

I. 第302次発掘調査

1. 調査経過と調査方法

第302次調査は、申請者より令和元年11月12日付で提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(令和元年11月19日付H31教生文第101-344号で通知)に基づき実施した。

今回の調査地点は、郡山遺跡方四町II期官衙の西辺付近に位置し、平成11年度に調査が行われた第129次調査区、平成28年度に調査が行われた第265次調査区の東側、平成30年度に調査が行われた第292次調査の南側にある(第2・4図)。

調査は令和元年12月10日に開始し、想定される遺構検出状況をもとに、建築予定範囲内に東西3.0m×南北4.0mの規模で調査区を設定した。重機により盛土および基本層I・II層まで掘り下げ、基本層III層上面(GL-0.8~0.9m)で遺構検出作業を行った。同時に行っていた303次調査で掘立柱建物跡の一部と考えられるP1が検出されたことから、302次調査でも検出が予想されたため、調査区の西側を1.5m×2.0mの規模で拡張した。遺構の記録は、平面図・断面図をS=1/20で作製し、記録写真はデジタルカメラを用いて撮影した。また、調査の際に郡山座標(No.22)から基準点・水準点の移設を行った。12月23日に調査を終了し、その後重機により埋め戻しを行った。



第3図 第302次調査区配置図



第4図 第302次調査区位置図

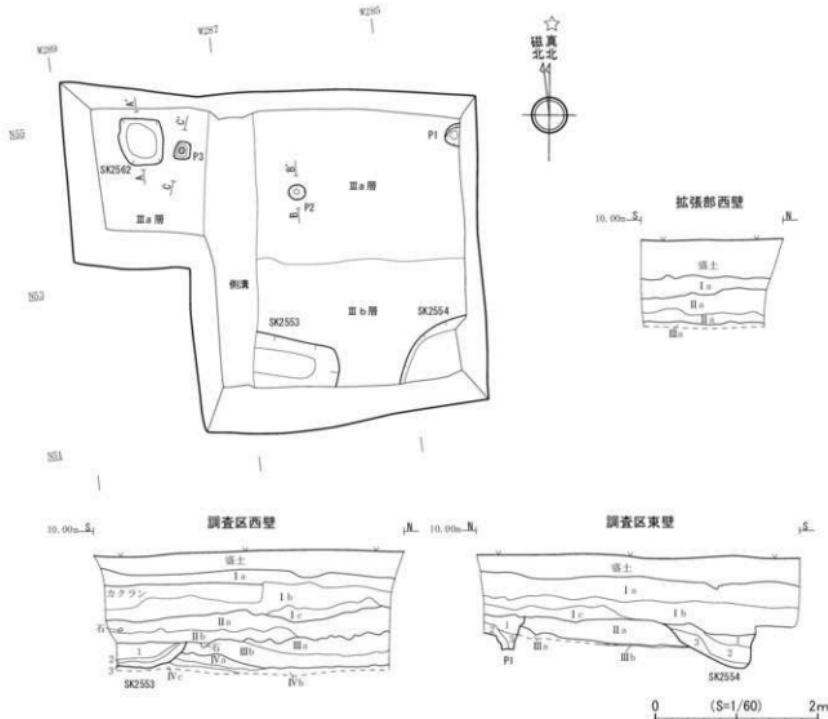
2. 基本層序

盛土の下に基本層を大別4層、細別で10層確認した。盛土は17~32cmの厚さで、遺構確認を行ったIII層までの深さはGL-1.1m程度である。

遺構検出面のIII層は他の郡山遺跡で検出されている遺構面よりも黒褐色粘土質シルトが多く混入する状況から、調査区西側にサブトレンチを設定し堆積状況を確認した。III層とIV層は南西から北東方向に緩やかに傾斜し、明黄褐色と黒褐色の層が互層に確認できることから、自然流路の堆積土である可能性が考えられる。

3. 検出遺構と出土遺物

検出された遺構は、土坑3基、ピット3基である。遺物は各遺構から土師器片や須恵器片が出土した。



測点名	層位	土色	土性	備考
基本層	1 a	10Y3/3.5 暗褐色	粘土質シルト	小礫を含む。
	1 b	10Y3/2.5 黄褐色	シルト	腐化物を多く含む。
	1 c	10Y3/2.5 に少く黄褐色	シルト	層厚プロック（約5～10cm）を含む。腐化物を含む。
	II a	10Y5/3.2 黒褐色	シルト	層厚プロック（約5～10cm）を含む。腐化物を含む。
	II b	10Y5/3.1 黑褐色	シルト	腐化物を多く含む。樹木軸を含む。
	II c	10Y5/6.8 明黄色褐色	シルト質粘土	IV層プロック（約5～10cm）を含む。炭化物を含む。腐化鉄をまばらに含む。樹木軸
	II d	10Y5/6.6 明黄色褐色	シルト質粘土	マントル層（約0.5～1m）を含む。炭化物をぼんやりと含む。
	IV a	10Y5/2.2 黑褐色	シルト	10Y5/6.6 明黄色褐色のカット（約5～10cm）を含む。腐化鉄を少量化。
	IV b	10Y5/6.6 明黄色褐色	シルト	マントル層を少量含む。鐵化鉄を含む。
	IV c	10Y5/2.2 黑褐色	シルト	マントル層が少量含む。鐵化鉄を含む。
SK2553	1	10Y5/2.2 黄褐色	シルト	腐化物を含む。炭化物を含む。
	2	10Y5/1.1 黄色	粘土質シルト	腐化物を少量化。
	3	10Y5/5.5 黄褐色	粘土質シルト	腐化物を少量化。
SK2554	1	5Y4/2 オリーブ黒色	粘土質シルト	腐化物を微細に含む。
	2	5Y4/2.2 褐オリーブ	粘土質シルト	腐化物を微細に含む。
	3	5Y4/3.2 褐オリーブ色	粘土質シルト	腐化物を少量化。腐化鉄を微量に含む。
SK2562	1	10Y5/2.2 黑褐色	シルト	腐化物を少量化。
	2	10Y5/1.1 黑褐色	シルト	腐化物を少量化。
	3	10Y5/3.3 黄褐色	シルト	腐化物を微量に含む。
P1	1	10Y5/2.2 黄褐色	シルト	腐化物を少量化。
	2	10Y5/2.2 黑褐色	シルト	腐化物を少量化。
	3	10Y5/6.6 黄褐色	シルト	層厚プロック（約5～10cm）を含む。腐化物を少量含む。
P2	1	10Y5/2.2 黄褐色	シルト	腐化物を微量に含む。
	2	10Y5/1 黑褐色	粘土質シルト	層厚プロック（約5～10cm）を含む。（柱筋跡）
P3	1	10Y5/2.2 黑褐色	粘土質シルト	層厚プロック（約5～10cm）を含む。（柱筋跡）
	2	10Y5/1 黑褐色	粘土質シルト	層厚プロック（約5～10cm）を含む。（柱筋跡）

第5図 第302次調査区平面・断面図



第6図 土坑・ピット断面図

【SK2553 土坑】

調査区の南西側で検出された。III a層上面から掘りこまれた遺構で規模は東西1.4m以上、南北70cmであり、平面形は細長い楕円形を基調としたものと推測される。深さは30cmで、断面形状は逆台形を呈する。堆積土は3層に細分される。遺物は堆積土から土師器の破片が出土している。

【SK2554 土坑】

調査区の南東側で検出された。II a層上面から掘りこまれた遺構で規模は東西80cm以上、南北70cm以上である。深さは約60cmで、断面形状は逆台形を呈すると推測される。堆積土は3層に細分される。

【SK2562 土坑】

調査区の拡張部で検出された。規模は東西54cm、南北58cmであり、平面形は隅丸方形である。深さは17cmで、断面形状は逆台形である。堆積土は2層に細分される。

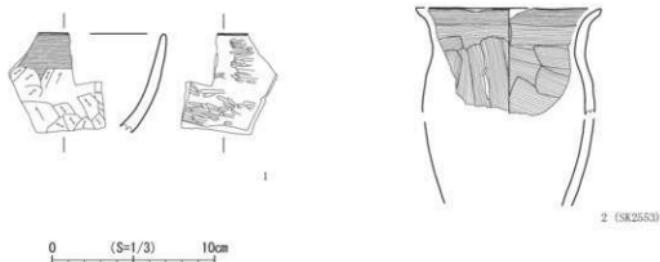
【ピット】

今回の調査区からは3基のピットが検出された。P1とP2は平面形状が円形を基調としており、径は14cm～15cmである。深さは約20～40cmを測る。P3は平面形状が隅丸方形を基調としており、一辺は19～22cmである。深さは42cmを測る。直径8cmの柱痕跡がみられ掘立柱建物を構成する可能性が考えられる。

4.まとめ

今回の調査地点は郡山遺跡Ⅱ期官衙内の西部に位置する。

今回の第302次調査区からは土坑3基、ピット3基が検出された。北側で同時期に調査した303次調査で掘立柱建物跡を構成すると考えられる柱穴(P1)が検出されたことから調査区の西側を拡張したが、拡張部で検出されたP3は、303次調査のP1と掘り方の規模や形態が異なることから、想定した掘立柱建物跡を構成する遺構ではないと考えられる。



調査 番号	登録 番号	出土 遺物	層位	種別	形状	法長(cm)			外因	内因	備考	写真 番号
						口径	底径	高さ				
7-1	C-1323	-	土壤上面	土師器	灰	-	-	(6.2)	口：ヨコナデ 体：ケメリ一部擦減	黑色化理 ハガキ 一部擦減	第十枚小形骨片や多量に含む骨塊、白色骨粉含む。褐色骨粉少量含む。白色骨粉少量含む。白色骨粉少量含む。白色骨粉少量含む。白色骨粉少量含む。	1-1
7-2	C-1324	SK2553	-	土壤面	灰	(11.6)	-	(6.4)	口：ヨコナデ 体：ヘラナデ	口：ヨコナデ 体：ヘラナデ	筋状 破片、石英、白粉少量含む	1-2
-	C-1325	SK2553	-	土壤面	不明	-	-	(3.7)	-	-	漆？片岩	1-3

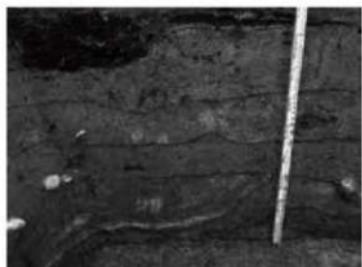
第7図 第302次出土遺物



1. 遺構完掘状況（南から）



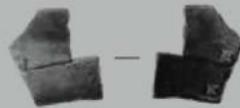
2. 拡張区完掘状況（南東から）



3. 西壁断面南側（東から）



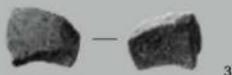
4. 西壁断面北側（東から）



1
(第7図1)



2
(第7図2)



3

第 302 次調査出土遺物

写真図版 1 第 302 次調査

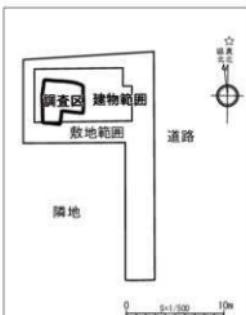
II. 第303次発掘調査

1. 調査経過と調査方法

第303次調査は、申請者より令和元年11月12日付で提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(令和元年11月19日付H31教生文第101-345号で通知)に基づき実施した。

今回の調査地点は、郡山遺跡方四町Ⅱ期官衙の西辺付近に位置し、平成11年度に調査が行われた第129次調査区、平成28年度に調査が行われた第265次調査区の東側、平成30年度に調査が行われた第292次調査の南側にある(第2・9図)。

調査は令和元年12月10日に着手し、想定される遺構検出状況をもとに、建築予定範囲内に東西4.0m×南北3.0mの規模で調査区を設定した。重機により盛土および基本層I・II層まで掘り下げ、基本層III層上面(GL-0.9~1.0m)で遺構検出作業を行った。掘立柱建物跡の一部と考えられる柱穴が検出されたことから遺構の広がりを確認するため、調査区の南側を1.5m×2.0mの規模で拡張した。遺構の記録は、平面図・断面図をS=1/20で作製し、記録写真はデジタルカメラを用いて撮影した。また、調査の際に郡山座標(No.22)から基準点・水準点の移設を行った。12月23日に調査を終了し、その後重機により埋め戻しを行った。



第8図 第303次調査区配置図



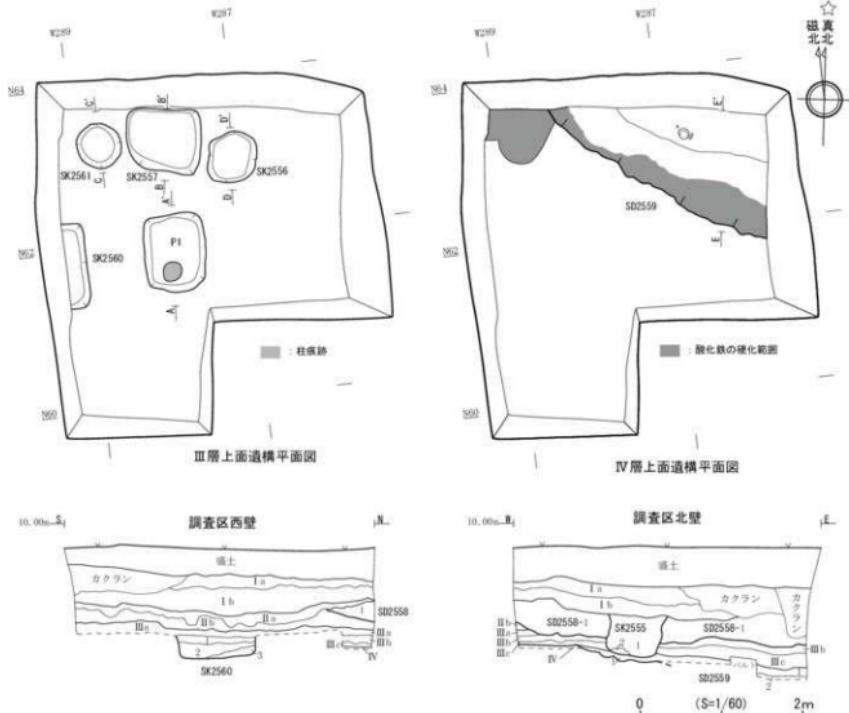
第9図 第303次調査区位置図

2. 基本層序

盛土の下に基本層を大別4層、細別で8層確認した。盛土は17~32cmの厚さで、遺構確認を行ったIII層上面までの深さはGL-1.0m程度である。遺構検出面のIII層は302次と同様に黒褐色粘土質シルトが多く混入する状況が確認できる。IV層は酸化鉄を多く含み上面には酸化鉄の集積が認められる。

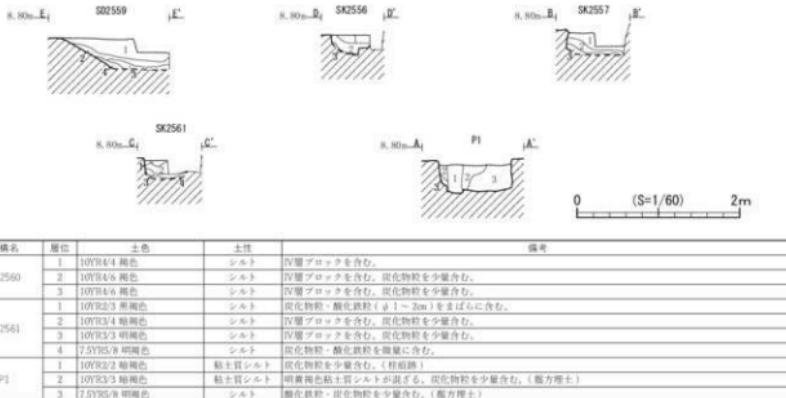
3. 検出遺構と出土遺物

検出された遺構は、溝跡2条、土坑5基、ピット1基である。遺構は主にIII層上面とIV層上面の2面で確認した。また調査区断面の観察を行った結果、II層上面から掘り込まれた遺構も少数存在することを確認している。遺物は各遺構から土師器片や須恵器片が出土した。



土壤名	層位	土色	土性	備考
基本層	1	10YR3/3 黄褐色	粘土質シルト	小礫を含む。
	1 b	10YR4/3 にじい黄褐色	シルト	酸化物粒をまばらに含む。灰白土が少量含む。
	II a	10Y5/5 にじい黄褐色	シルト	IV層 プロック ($\phi 5\sim10cm$) を含む。酸化鉄粒をまばらに含む。(耕作土)
	II b	10Y5/6 黄褐色	シルト	III層 プロックを含む。酸化物粒、酸化鉄粒、酸化物物をまばらに含む。
	III a	10Y5/6 黄褐色	シルト質粘土	マンゴー粒 ($\phi 1\sim2cm$) を含む。酸化鉄粒、酸化物物をまばらに含む。(被出頭)
	III b	10Y5/6 黄褐色	シルト質粘土	マンゴー粒 ($\phi 1\sim2cm$) を含む。酸化鉄粒、酸化物物をまばらに含む。
	III c	10Y5/6 黄褐色	シルト	マンゴー粒 ($\phi 1\sim2cm$) を含む。酸化鉄粒を多く含む。(IV層が崩落した層)
	IV	7.5YR5/8 明褐色	シルト	酸化物粒、酸化物物を多く含む硬化範囲。(被出頭)
SK2558	1	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	酸化物粒 ($\phi 1\sim2cm$) をまばらに含む。
	1	10YR4/2 灰黃褐色	シルト	酸化物粒を多く含む。
	2	10YR4/1 暗褐色	粘土質シルト	IV層 プロック ($\phi 5\sim7cm$) を含む。
	3	7.5YR5/1 暗褐色	粘土質シルト	IV層 プロック ($\phi 5\sim7cm$) を含む。
SK2559	4	7.5YR6/2 灰褐色	粘土質シルト	酸化物粒を微量に含む。
	1	10Y5/5 にじい黄褐色	シルト	酸化物粒、酸化物物を微量含む。
	2	10YR2/3 黑褐色	シルト	酸化物粒、酸化物物を少額含む。
	3	10YR2/4 黄褐色	シルト	IV層 プロック ($\phi 5\sim7cm$) を含む。
SK2556	1	10YR3/3 黄褐色	シルト	IV層 プロック ($\phi 5\sim7cm$) を含む。酸化物粒を微量に含む。
	2	10YR3/3 黄褐色	シルト	酸化物物、砂土 ($\phi >10mm$) を多量に含む。
	3	7.5YR5/8 明褐色	シルト	酸化物物、酸化物物を少額含む。
SK2557	1	10YR2/3 黄褐色	シルト	IV層 プロックを含む。
	2	10YR4/3 にじい黄褐色	シルト	酸化物粒を微量含む。
	3	10YR3/3 黄褐色	シルト	酸化物物を少額含む。

第10図 第303次調査区平面・断面図



第11図 溝跡・ピット断面図

【SD2558溝跡】

調査区の北側で検出された北西-南東方向の溝跡である。断面でのみ確認している。調査区壁面の観察では、II b層上面の遺構であると考えられる。規模は検出長が約3.3mで、調査区外にさらに延びる。上端幅50cm以上、深さ40cm以上で、断面形状は皿形を呈すると推測される。堆積土は単層である。

【SD2559溝跡】

調査区の北側で検出された北西-南東方向の溝跡である。SK2555・2556・2557・2560・2561土坑、P1より古い。IV層上面から掘りこまれた遺構で、規模は検出長が3.1mで、調査区外にさらに延びる。方向はN-54°-Wで、上端幅が1.5m以上、下端幅が50cm以上である。深さは36cm以上であり、掘削深度による制約から完掘はしていない。堆積土は4層確認され、自然堆積である。遺物は、完形に近い内面が黒色処理された有段丸底杯(第13図1)が3層上面から出土している。他に土師器の破片が堆積土中から出土している。

【SK2555土坑】

調査区の北側で検出された。断面でのみ確認している。I b層上面から掘りこまれた遺構で、規模は東西72cm、南北は不明であり、深さは50cmで、断面形状はU字形を呈する。堆積土は2層に細分される。

【SK2556土坑】

調査区の北側で検出された。III層上面で確認され、規模は東西60cm、南北62cmであり、平面形は梢円形を呈している。深さは26cmで、断面形状は逆台形を呈する。堆積土は3層に細分される。遺物は土師器片と須恵器片が出土している。

【SK2557土坑】

調査区の北側で検出された。III層上面で確認され、規模は東西92cm、南北80cmであり、平面形は隅丸方形を呈している。深さは28cmで、断面形状は逆台形を呈する。堆積土は3層に細分される。遺物は須恵器片と羽口(第13図5)が出土している。

【SK2561土坑】

調査区の西側で検出された。P1と同様の形態であることと位置関係から、P1と共に掘立柱建物跡を構成する柱穴の可能性があるが、東側一部の検出であったためピットではなく土坑としている。III b層上面から掘りこまれた遺構で、規模は東西21cm以上、南北1.0mであり、平面形は隅丸方形を呈していると推測される。深さは30cmで、断面形状は逆台形を呈する。堆積土は3層に細分される。

【SK2561土坑】

調査区の北西側で検出された。III層上面で確認され、規模は東西54cm、南北56cmであり、平面形は円形を呈している。深さは26cmで、断面形状は逆台形を呈する。堆積土は4層に細分される。

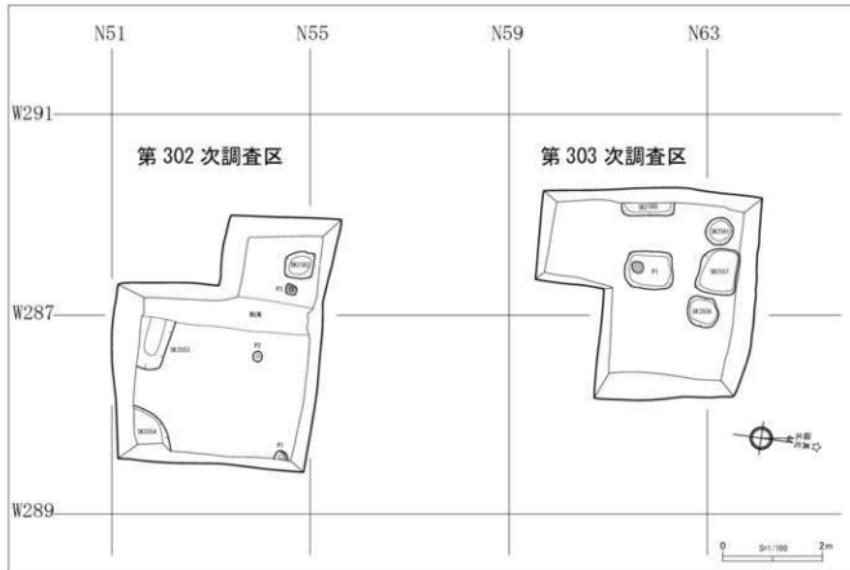
【ピット】

今回の調査区からは1基のピットが検出された。P1は調査区の中央で検出された。規模は東西78cm、南北95cmであり、平面形は隅丸方形である。深さは40cmで、直径20cmの柱痕跡が確認されている。堆積土は3層に細分され、1層は柱痕跡である。掘方が真北方向に形成されていることから、II期官衙の掘立柱建物に伴う柱穴の可能性が考えられる。遺物は土師器片と須恵器片が出土している。

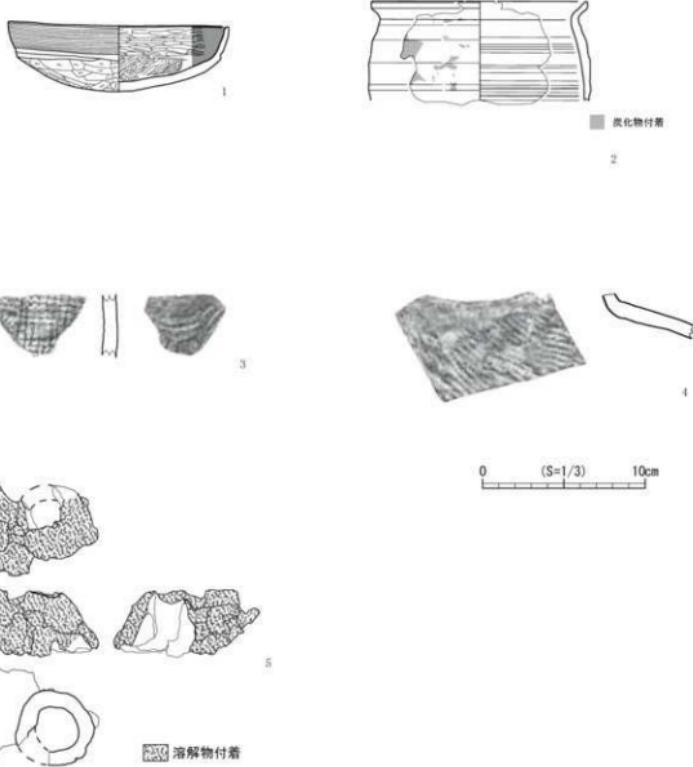
4.まとめ

今回の第303次調査区からは溝跡2条(SD2558・SD2559)、土坑5基(SK2555・2556・2557・2560・2561)、柱穴1基(P1)が検出された。P1に関しては掘方が真北軸に形成され、II期官衙の掘立柱建物跡に伴う柱穴の可能性が考えられる。またSK2560は部分的な検出のため柱痕跡を確認することができなかつたが、P1と共に掘立柱建物を構成する柱穴の可能性がある。また、調査区を南側に拡張して調査したが柱穴を確認することができなかつた。

下層のIV層上面では、方向が北西-南東方向の溝跡SD2559が検出されている。当該調査区の南側に位置する302次調査区のIIIa層より下層は自然流路と考えられる堆積状況がみられ、当該調査区でもIIIa層より下層は同様の堆積であることと、さらに南側の上端が直線的でないことなどから、SD2559は溝跡ではなく自然流路の可能性があり、この場合は基本層III層も流路の堆積土であると考えられる。



第12図 第302・303次遺構配置図



図版 番号	登錄 番号	出土 遺構	層位	種別	面相	法面 (cm)			外面	内面	備考	写真 同様
						口徑	底径	厚さ				
13-1	C-1327	SD2559	-	土師器	环	14.6	-	4.3	口:ヨコナデ 体:沈締ヘラケヌリ底:ヘラケヌリ	シガキ 黒色光沢 口縁部や中央部小穴かずらに含む 白糞	動土 砂粒・石英・3mm程の白糞少量含む	3-1
13-2	D-115	-	耕作土	土師器	甕	(13.2)	-	(6.1)	ロクロ調整 底スス付着あり	ロクロ調整 滑状ヘラ痕あり	動土 植小石类似小量に含む 黒色砂粒含む 塗成	3-2
13-3	E-648	-	田原上部	須恵器	甕	-	-	(3.85)	舟子目叩き	同心円文	動土 砂粒・石英含む	3-3
13-4	E-649	-	表土	須恵器	甕	-	-	(2.1)	ロクロ→平行叩き	ロクロ→ナデ	動土 砂粒・石英・白糞ごくわずかに含む	3-4
-	C-1326	-	田原上部	土師器	不明	-	-	(2.4)	-	-	滑行着	3-6

図版 番号	登録 番号	出土 遺構	層位	種別	面相	法面 (cm)			備考	写真 同様
						高さ	幅	厚さ		
13-5	F-79	SK2553	表土	土製品	引口	4.0	2.4~4.7	-	重量61.4g 溶解物付着 当面ヘラナデ	3-5

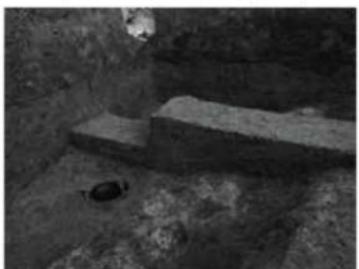
第 13 図 第 303 次出土遺物



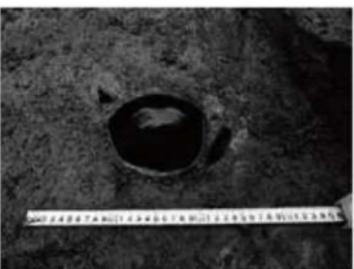
1. 調査区遺構検出状況（南から）



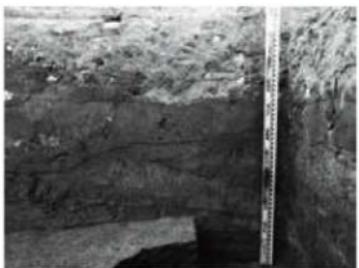
2. P1 断面（東から）



3. SD2559 溝跡検出状況状況（南西から）



4. SD2559 溝跡土師器出土状況（南西から）



5. 調査区西壁断面



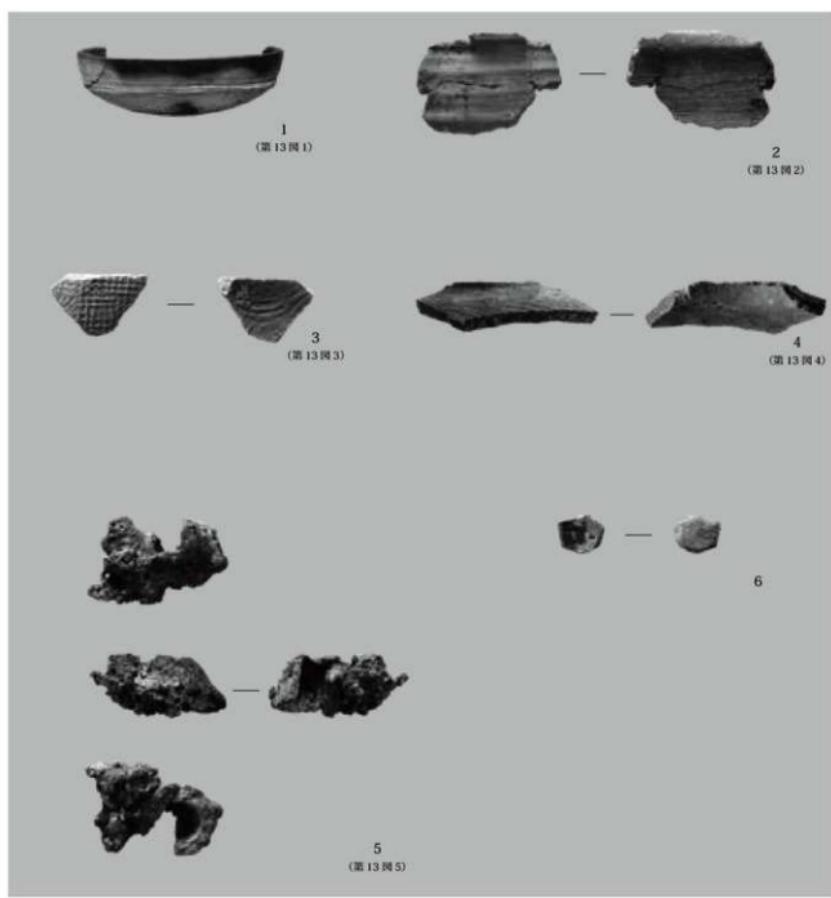
6. 南西拡張区完掘状況（東から）



7. III層上面遺構完掘状況（南から）



8. 調査終了状況（南から）



第303次調査出土遺物

写真図版3 第303次調査

III. 第304次発掘調査

1. 調査経過と調査方法

第304次調査は個人住宅建築に伴う発掘調査である。申請者より令和2年6月22日付で提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(令和2年6月22日付R2教生文第101-111号で通知)に基づき実施した。

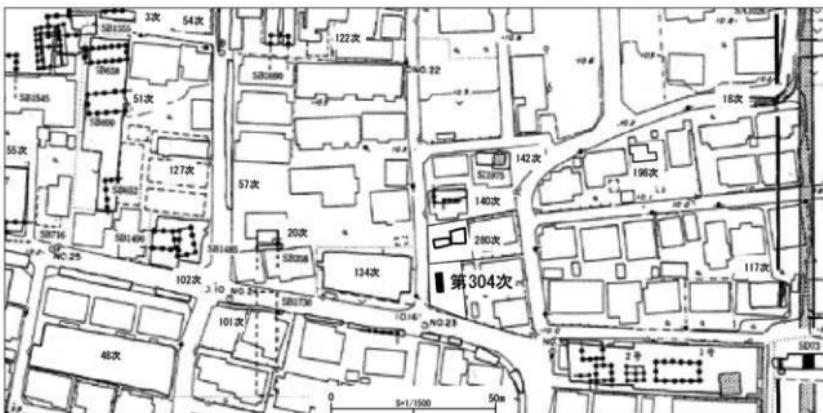
今回の調査地点は、郡山遺跡II期官衙南東部に位置し、平成12年度に調査が行われた第134次調査の東側に、平成30年度に調査が行われた第280次調査の南側に位置する(第2・15図)。

調査は令和2年7月20日に着手し、建築予定範囲内東西2.2m×南北6.5mの調査区を設定した。なお、重機掘削の途中、埋設管を確認したため調査区を東西2.2m×南北6.0mに変更した。重機で盛土およびI~III層を除去後、IV層上面(GL-0.9~1.1m程度)で遺構検出作業を行い、溝跡1条とピット3基を検出した。

遺構の調査終了後、調査区平面図(S=1/20)および調査区西壁・北壁断面図(S=1/20)を作製し、記録写真はデジタルカメラで撮影し、7月21日に複数回の転圧をかけながら重機で埋め戻しを行い、調査を終了した。



第14図 第304次調査区配置図



第15図 第304次調査区位置図

2. 基本層序

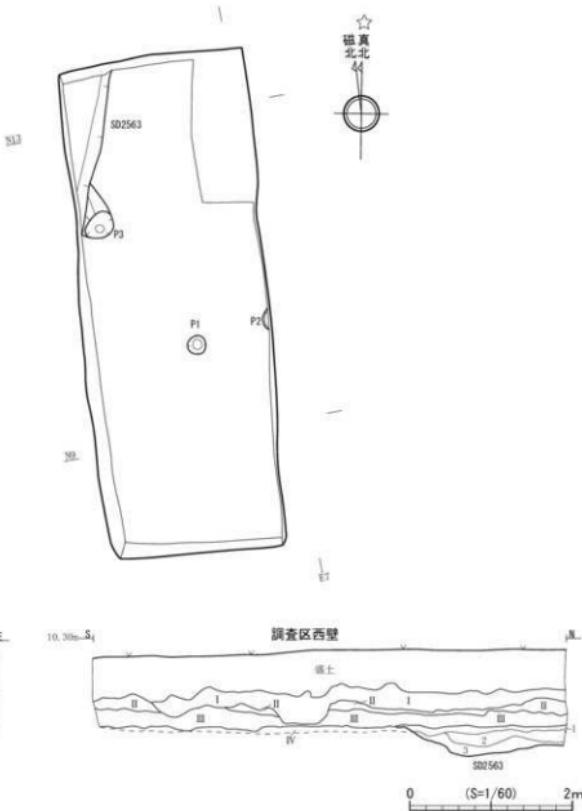
盛土の下に基本層を大別で3層確認した。盛土は40~60cmの厚さで、遺構検出面であるIV層までの深さはGL-0.9~1.1mである。I層は水田耕作土、III層は耕作土である。

3. 検出遺構と出土遺物

今回の調査ではIV層上面で溝跡1条とピット3基を確認した。遺物は溝跡から須恵器破片が出土した。

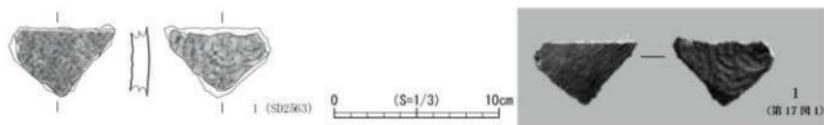
【SD2563】溝跡

調査区北西隅で確認した南北方向に延びる溝跡で、調査区外へ延びている。P3と重複しており、P3より新しい。方向はN-9°-Eで、検出長は2.08m、上端幅56cm以上、深さは38cmで、断面形は逆台形状である。堆積土は



層位名	層位	土色	土性	備考
基本層	I	2.5Y3/1 黄褐色	粘土	一部グライ化。留丁面に酸化鉄が集塊。(水出耕作土)
	II	10YR5/4 暗褐色	粘土	10YR5/6 黄褐色粘土粒。小プロックを少量含む。炭化物粒を微量含む。
	III	10YR4/4 暗色	粘土	酸化鉄と炭化物を微量含む。(耕作土)
	IV	10YR5/6 黄褐色	粘土	10YR4/6m 暗褐色粘土ブロックを少額含む。
SD2563	I	10YR3/4 暗褐色	粘土	10YR5/6 黄褐色粘土粒を微量含む。
	2	10YR4/3 にふい黄褐色	粘土	酸化鉄をやや多く含む。10YR5/6 黄褐色粘土小プロック (ϕ 20 ~ 30mm) を微量含む。
	3	10YR3/2 黄褐色	粘土	酸化物を微量含む。酸化鉄を多く含む。10YR5/6 黄褐色粘土粒・プロック (ϕ 10 ~ 30mm) を多く含む。

第 16 図 第 304 次調査区平面・断面図



実証 番号	登録 番号	出土 遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)	外面	内面	備考	写真 回数
1	E-650	SD2563	堆積土	田園地	甕	- - - (4.0) すり潰し	同心円文 ナデ	粘土 砂粒、石英を含む		

第 17 図 第 304 次調査出土遺物

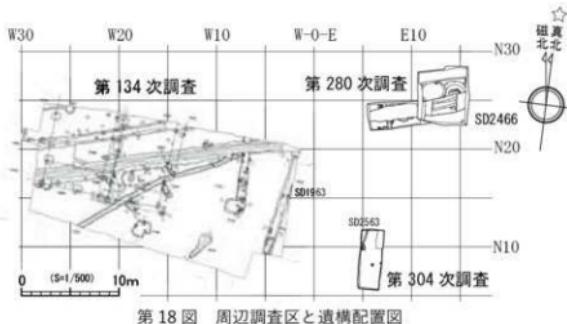
3層確認された。にぶい黄褐色粘土を主体としている。遺物は須恵器甕の破片（第17図1）が出土した。

【ピット】

ピットは3基確認された。平面形は円形と梢円形で、P1は径が24cm、深さが16cm、P2は径が26cm以上、深さが11cm、P3は径が40cm以上、深さが29cmである。P1、P2とも柱痕跡は確認されず、建物跡や柱列跡を構成する配列は確認できなかった。いずれのピットからも遺物は出土しなかった。

4.まとめ

今回の調査地点は、郡山遺跡のII期官衙南東部に位置する。今回の調査では、IV層上面で溝跡1条とピット3基を確認した。遺構の規模や位置関係、出土遺物などの状況から、いずれの遺構も官衙に関連する遺構ではないと考えられる。SD2563溝跡は部分的な検出のみであり詳細は不明であるが、西側にある第134次調査で確認されているSD1963溝跡の方向に近い。SD1963溝跡は、遺構の新旧関係と出土遺物から平安時代以降のものと考えられている。また、SB1930掘立柱建物跡の柱穴の掘方に灰白色火山灰が含まれており、官衙廃絶後やや時期を隔てて建物跡や溝跡が存在していたことが明らかになっている。今回の調査で確認されたSD2563溝跡は一部のみの検出であり、第134次調査で検出された遺構との関連性は不明であるが、今後も周辺の調査を進める中で、官衙廃絶後の遺構の在り方について検討する必要がある。



第18図 周辺調査区と遺構配置図



1. 調査区全景（北から）



2. 調査区北壁・SD2563断面

写真図版4 郡山遺跡第304次調査

IV. 第305次発掘調査

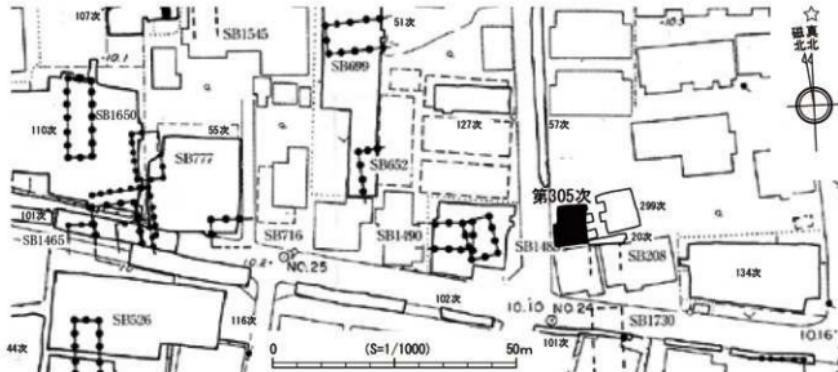
1. 調査経過と調査方法

第305次調査は、史跡整備に伴う範囲確認調査である。調査地点は郡山三丁目126番1に所在し、昭和56年度の第20次調査の北西側、令和元年度の第299次調査の西側に位置している（第2・19図）。

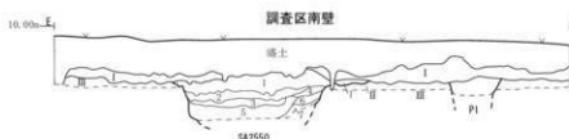
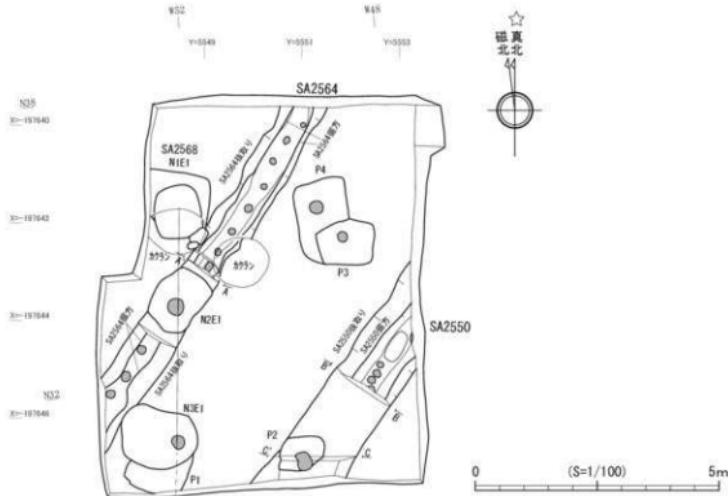
方四町II期官衙については、これまでの調査から、中枢部では正殿を中心に東西の対称する位置に南北棟の建物が配置されたと考えられている。西列建物跡群ではSB526掘立柱建物跡（第44次調査）やSB1465掘立柱建物跡（第101次調査）、SB1650掘立柱建物跡（第110次調査）が確認されているが、東列建物跡群についてはSB208掘立柱建物跡（第20・299次調査）とSB1730掘立柱建物跡（第101・242次調査）で建物の一部が確認されているのみで、その詳細は明らかになっておらず、東列建物跡群の様相を検証する必要があった。令和元年度に実施した第299次調査では、第20次調査で確認されていたSB208掘立柱建物跡の延長部分が確認された。調査面積が狭かったため建物跡の規模や構造については不明であるが、柱穴の検出位置と配置からSB208掘立柱建物跡が西列建物跡群で確認されている東西2間の南北棟の建物とは構造的に異なることが確認された。

今回はSB208掘立柱建物跡の詳細を確認することを目的として調査を実施した。本調査は史跡地内での調査であるため令和2年5月11日付で現状変更許可申請書（R2教生文第599号）を提出し、令和2年6月19日付で現状変更が許可されている（2受文庁第4号の243）。

調査は令和2年8月24日から開始し、東西6.5m×南北8mの調査区を設定した後、重機で盛土及び基本層I層とII層を除去し、基本層III層上面（G L -0.5m）で遺構検出作業を行った。なお、今回の調査は史跡地内での範囲確認調査であるため、遺構の掘り込みは一部分のみとし、完掘は行っていない。遺構の記録は平面図をS=1/20、断面図をS=1/20で作製し、記録写真は35mmモノクロフィルムとリバーサルフィルムを使用し、併せてデジタルカメラを用いて撮影した。9月28日に調査を終了し、重機で埋め戻しを行った。



第19図 第305次調査区位置図



層位	土色		土性	備考	
	Ⅰ	Ⅱ			
基本層	10YR3/4 嘉納色	粘土質シルト	マンガノと鈷化鉄を微量含む。		
	II 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	10YR5/6 黃褐色粘土小ブロック・粒を少量含む。		
	III 10YR6-4 にこい 黃褐色	粘土	10YR3/4 黃褐色粘土粒を微量含む。鈷化鉄を微量含む。		
直標名	高さ(cm)	層位	土色	土性	
III	柱状段り 約	10YR6/7 嘉納色	粘土	10YR5/6 黃褐色粘土粒を多く含む。鈷化鉄を微量含む。炭化物粒を微量含む。	
SA2568 NIEI	(120) × 100	盛土堆土	10YR3/4 嘉納色	粘土	10YR5/6 黃褐色粘土小ブロックをやや多く含む。10YR5/6 黃褐色粘土大ブロック・粒と鈷化鉄を微量含む。
	35	柱頭跡	10YR3/4 嘉納色	粘土	10YR5/6 黃褐色粘土小ブロックを少額含む。10YR5/6 黃褐色粘土粒をやや多く含む。
	28	柱頭跡	10YR4/4 黑褐色	粘土	10YR5/6 黃褐色粘土粒を微量含む。
SA2568 NESEI	162 × 119	盛土堆土	10YR3/4 嘉納色	粘土	10YR5/6 黃褐色粘土小ブロック・粒を多く含む。炭化物粒と鈷化鉄を微量含む。
P1	120 × 90	盛土堆土	10YR3/4 嘉納色	粘土	10YR5/6 黃褐色粘土粒をやや多く含む。10YR5/6 黃褐色小ブロックを少額含む。炭化物粒と鈷化鉄を微量含む。小砂を含む。
	35	柱頭跡	10YR3/4 嘉納色	粘土	10YR5/6 黃褐色粘土粒をやや多く含む。10YR5/6 黃褐色粘土小ブロックを少量含む。
	90 × 68	面方理土	10YR5/6 にこい 黃褐色	粘土	10YR5/4 嘉納色粘土ブロックを少額含む。10YR5/6 黃褐色粘土粒を微量含む。
	21	柱頭跡	10YR3/4 黑褐色	粘土	10YR5/6 黃褐色粘土粒をやや多く含む。10YR5/6 黃褐色粘土小ブロックを少額含む。炭化物粒を微量含む。
P2	120 × 94	盛土堆土	10YR3/4 嘉納色	粘土	10YR5/6 黃褐色粘土粒をやや多く含む。10YR5/6 黃褐色粘土小ブロックを少額含む。炭化物粒を微量含む。
	26	柱頭跡	10YR3/4 嘉納色	粘土	10YR5/6 黃褐色粘土粒と 10YR5/6 黑褐色粘土粒を少額含む。
P3	161 × 104	面方理土	10YR4/4 嘉納色	粘土	10YR5/6 黃褐色粘土小ブロックをやや多く含む。10YR5/6 黃褐色粘土粒を少額含む。

第 20 図 第 305 次調査区平面・断面図

2. 基本層序

盛土の下に基本層を大別で3層確認した。盛土の厚さは10~60cmである。遺構検出面であるIII層までの深さはGL-0.6mである。基本層は隣接する第299次と共通しており、I層とII層は畑の耕作土と考えられる。

3. 検出遺構と出土遺物

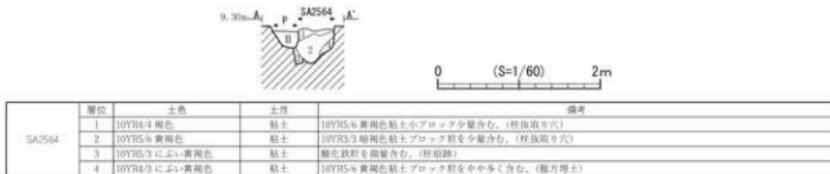
検出された遺構は柱列跡1列と材木列跡2列、柱穴である。検出面は全てIII層上面である。

【SA2568 柱列跡】

調査区の西部で検出された。確認した柱穴は3基である。N2E1とN3E1はSA2564材木列跡と重複し、SA2564材木列跡より新しい。方向はN=0°-Eである。柱穴の掘方の形状はNIE1とN2E1は方形、N3E1は梢円形で、規模は一辺がNIE1で120cm以上、N2E1で133cm、N3E1で162cmである。掘方埋土は暗褐色やにぶい黄褐色粘土である。N2E1とN3E1では柱痕跡が確認された。柱痕跡は径28~35cmの円形で暗褐色粘土である。NIE1では柱抜取り穴が確認された。柱抜取り穴の規模は径111cmで、基本層III層を起源とした黄褐色粘土粒を多く含んでいる。柱間は南北で2.15mと2.82mである。遺物は土師器片と須恵器片、小玉石、鉛錠が出土している。

【SA2564 材木列跡】

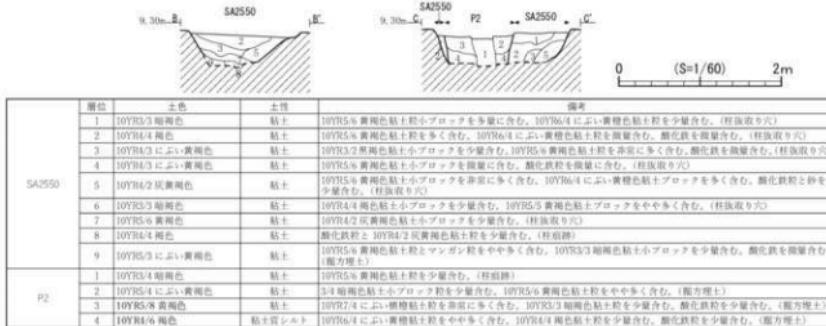
調査区の西部で検出された北東から南西方向の材木列跡で、方向はN=33°-Eである。SA2568柱列跡と重複しており、SA2568柱列跡より古い。検出長は8.4mで、調査区外へさらに延びる。史跡地内での範囲確認調査であるため、遺構の掘り込みは材木列跡の掘方と柱痕跡の確認のみにとどめた。遺構確認時に基本層II層を堆積土とするピット群を確認したが、畑の耕作に關係するものと考えられる。柱抜取り穴は溝状で上端幅72~92cm、深さは37~41cmである。柱抜取り穴の底面において、材木列跡の掘方と柱痕跡が確認された。掘方の上部は柱抜取りによって壊されており、残存する掘方の幅は32~55cmである。掘方のほぼ中央で径12~20cmの柱痕跡が連続して確認された。堆積土は柱抜取り穴が2層、掘方埋土が1層である。遺物は土師器の破片が出土している。



第21図 SA2564材木列跡断面図

【SA2550 材木列跡】

調査区の南東部で検出された北東から南西方向の材木列跡で、方向はN=37°-Eである。P2と重複しており、P2より古い。第299次調査の南調査区で確認されたSX2550性格不明遺構と堆積土が類似しており、ほぼ同じ位置での検出であるためSA2550材木列跡として報告する。検出長は5.1mで、調査区外へさらに延びる。史跡地内での範囲確認調査であるため、遺構の掘り込みは材木列跡の掘方と柱痕跡の確認のみにとどめた。柱抜取り穴は溝状で上端幅131~140cm、深さは31~40cm以上である。柱抜取り穴の底面において、材木列跡の掘方と柱痕跡が確認された。掘方の上部は柱抜取りによって壊されている。残存する掘方の幅は73~81cmである。掘方のほぼ中央で径14~17cmの柱痕跡が連続して確認されたが、柱痕跡が確認されず、柱の抜取りが確認された箇所もあった。堆積土は柱抜取り穴が7層、掘方埋土が1層である。遺物は土師器の破片が出土している。



第 22 図 SA2550 材木列跡断面図

【柱穴】

柱穴は4基検出された。P1はSA2568柱列跡N3E2と重複しており、SA2568柱列跡N3E2より古い。掘方は方形で、一辺が120cmである。柱痕跡は確認されなかった。P2はSA2550材木列跡と重複しており、SA2550材木列跡より新しい。P2では円形の柱痕跡が検出しており、径は35cmである。掘方は方形で、一辺が90cmで柱列跡を構成する柱穴と比べると小型である。P3とP4は重複しており、P3がP4より新しい。P3では円形の柱痕跡が検出しており、径は21cmである。掘方は方形で一辺120cmである。P4では円形の柱痕跡が検出しており、径は26cmである。掘方は方形で一辺が161cmである。P4では土師器と須恵器の破片が出土しており、このうち須恵器の甕(第23図1)を図示した。

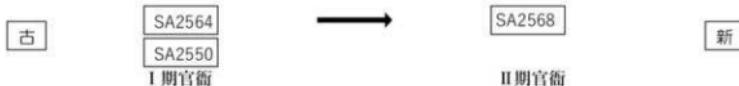


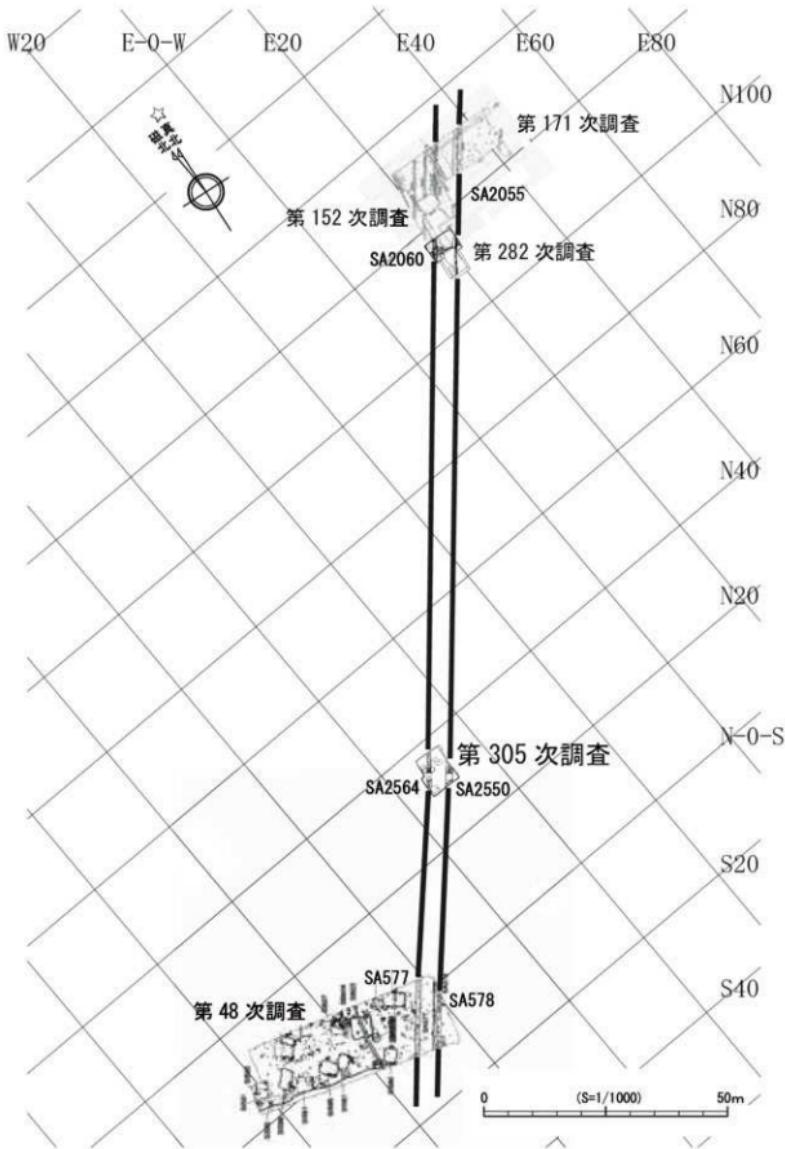
目次番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			外観	内面	備考	写真回数
						口径	底径	器高				
I	E-651	P4	-	須恵器	盤	-	-	(5.6)	平行手切口 (三方切)	当て具痕 (同心円文)	粘土 砂利、石英、白鈣ごく少額含む。重量27.9g。	7-1
質版番号												
K-415	SA2568 NIE1	出土 遺物	層位	種別	器種	法量(cm)			備考			写真 回数
						表さ	裏さ	厚さ				
						小石玉	1.5	1.4	0.5	直壁上7g		7-2
						金属製品	紙津	-	-	直壁20.8g		7-3
						金属製品	紙津	-	-	直壁41.3g		7-4
N-164	P4	出土 遺物	層位	種別	器種	法量(cm)			備考			写真 回数
						金属製品	紙津	-	-	直壁28.8g		
N-165	SA2568 NIE1	出土 遺物	層位	種別	器種	法量(cm)			備考			写真 回数
						金属製品	紙津	-	-	直壁28.8g		
N-166	SA2568 NIE1	-	-	-	-							7-5

第 23 図 第 305 次調査出土遺物

4.まとめ

今回の調査では柱列跡1例と材木列跡2例、柱穴が検出された。遺構の重複関係を整理すると以下の通りである。なお並立関係は、必ずしも同時性を示すものではない。



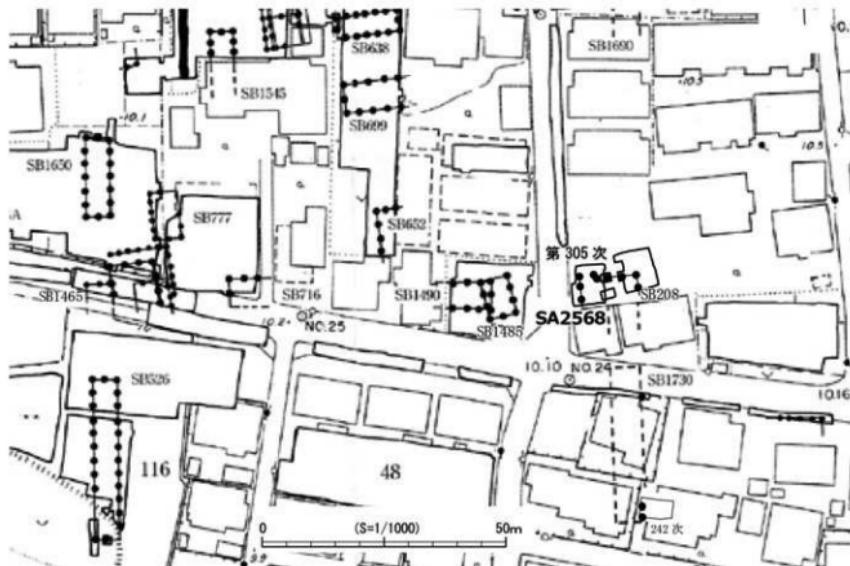


第 24 図 I期官衙材木跡位置図

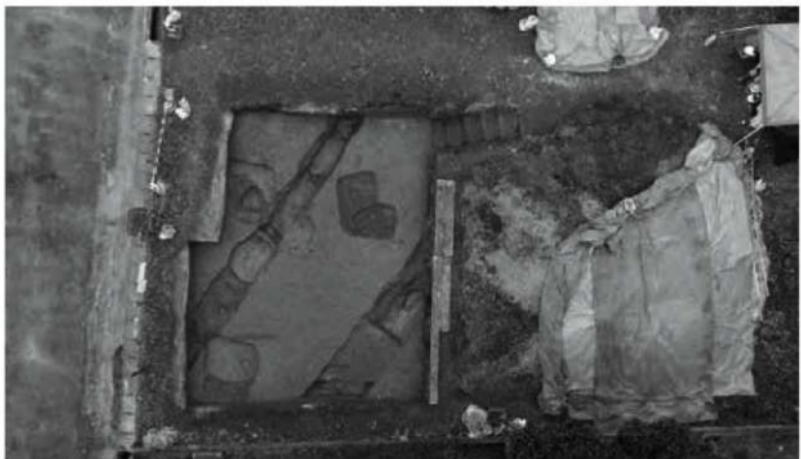
SA2564 材木列跡と SA2550 材木列跡は平行しており、ともに抜取りを受けており、その位置と方向から I 期官衙に伴う遺構と考えられる。第 24 図は I 期官衙の東辺の材木列跡の位置図である。材木列跡の検出位置から SA2564 材木列跡は SA577 材木列跡（第 48 次）および SA2060 材木列跡（第 152・171・282 次）と、SA2550 材木列跡は SA578 材木列跡（第 48 次）と SA2055 材木列跡（第 152・171・282 次）と連続する材木列跡と考えられる。この並行する 2 列の材木列跡は近接した位置関係から同時に存在していたとは想定しにくいと考えられる（仙台市教育委員会 2004）。

II 期官衙の時期の遺構は SA2568 柱列跡を検出した。今回確認した SA2568 柱列跡については、未調査の部分で検出される柱穴の配置によっては建物跡となる可能性もある。

今回の調査では東列建物跡群を構成すると考えられる建物跡について解明できなかった。これまでの調査で、II 期官衙中枢部建物跡の西列建物跡群は SB1650 堀立柱建物跡や SB526 堀立柱建物跡のようにその規模が判明している。しかし、東列建物跡群は想定場所が現在住宅地になっている場所が多く、また SB1730 堀立柱建物跡のように柱穴の検出のみの箇所もあり、その様相は未だ不明な点が多い。今後周辺の調査を進めていく、II 期官衙中枢部の建物群の構造を解明していく必要がある。



第 25 図 郡山遺跡 II 期官衙中枢部主要遺構配置図



1. 調査区全景（上が東）



2. 調査区遺構検出状況（北から）

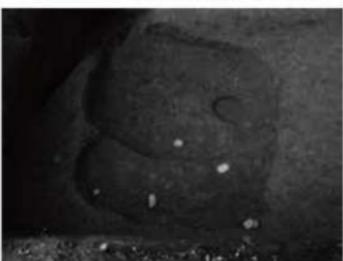
写真図版 5 第 305 次調査 (1)



1. SA2568 N1E1 検出状況（西から）



2. SA2568 N2E1 検出状況（西から）



3. SA2568 N3E1 · P1 検出状況（南から）



4. P3、P4 検出状況（東から）



5. P2 検出状況（南から）



6. SA2564 材木列跡検出状況（北東から）



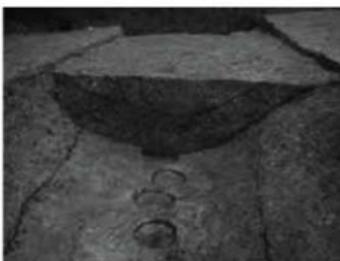
7. SA2564 材木列跡断面（北から）



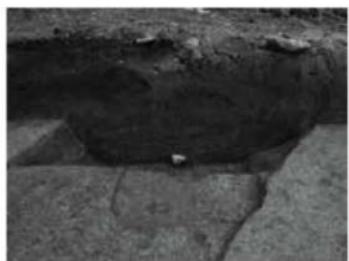
8. 調査区北壁・SA2564 断面（南から）



1. SA2550 材木列跡検出状況（南西から）



2. SA2550 材木列跡断面（北東から）



3. 調査区南壁断面・SA2550 材木列跡断面（北から）



4. 作業風景



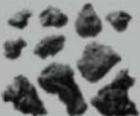
1
(第23図1)



2



3



4



5

第 305 次調査出土遺物

写真図版 7 第 305 次調査 (3)

V. 第306次発掘調査

1. 調査経過と調査方法

第306次調査は、史跡整備に伴う範囲確認調査である。調査地点は郡山五丁目30番1に所在し、昭和60年度に調査した第56次調査の北側に位置している（第2・26図）。

方四町II期官衙については、これまでの調査から、その構造が藤原京を模して造られたと考えられている。第56次調査では、材木列跡の掘方と連続して柱穴を4基（SB712建物跡）検出しており、外郭南辺のほぼ中央に位置していることから、外郭南門と考えられている。この南門跡は柱穴の配置から八脚門であると考えられている。今回は、南門北側の遺構状況の確認を目的として調査を実施した。なお、本調査は史跡地内の調査であるため令和2年5月11日付で現状変更許可申請書（R2教生文第599号）を提出し、令和2年6月19日付で現状変更が許可されている（2受文庁第4号の243）。

調査は令和2年8月24日から開始し、東西10m×南北6mの調査区を設定し、重機で盛土及び基本層Ia層とIb層を除去し、基本層IIa層上面（GL-1.5～1.6m）で遺構検出作業を行った。今回の調査は史跡地内の範囲確認調査であるため、遺構の掘りこみは一部分のみとした。遺構の記録は平面図をS=1/40、断面図をS=1/20で作製し、記録写真撮影は35mmモノクロフィルムとリバーサルフィルムを使用し、併せてデジタルカメラを用いて撮影した。9月28日に調査を終了し、重機で埋め戻しを行った。



第26図 第306次調査区位置図

2. 基本層序

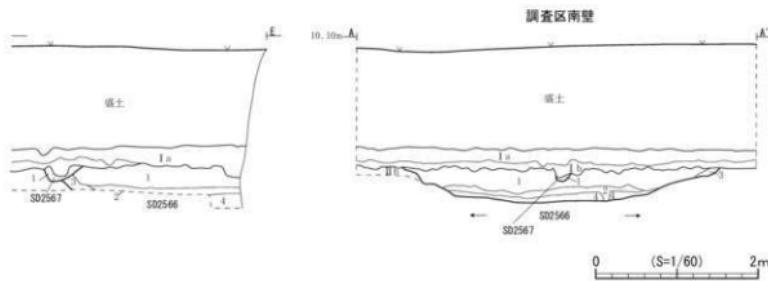
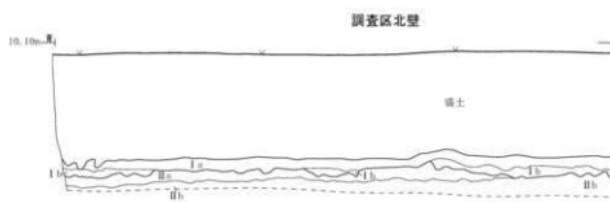
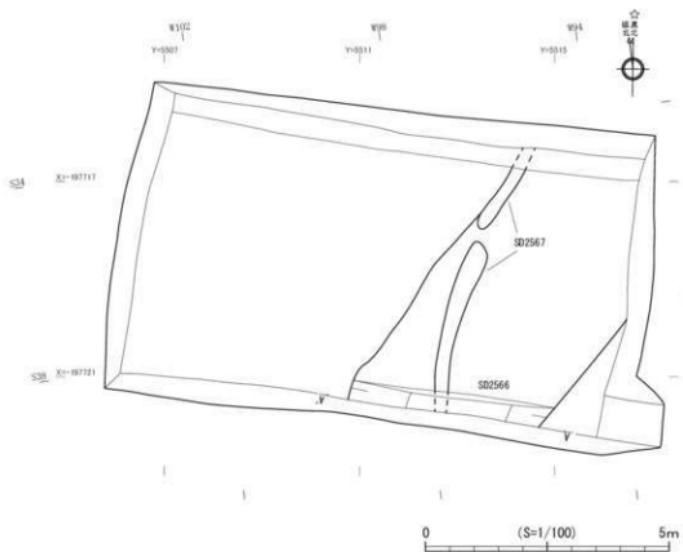
盛土の下に基本層を大別で2層、細別で4確認した。盛土の厚さは120cmである。遺構検出面である基本層IIa層またはIIb層までの深さはGL-1.5mである。IIa層は調査区の西部でのみ確認された。

3. 検出遺構と出土遺物

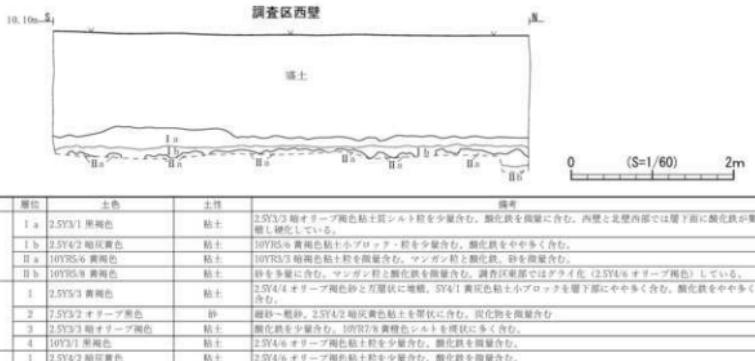
IIb層上面で溝跡2条を確認した。遺物は出土していない。

【SD2566 溝跡】

調査区の東部で検出された南北方向の溝跡で、調査区外へ延びる。方向はN-36°-Eである。SD2567溝跡と重複し、これよりも古い。検出長は6.3m、上端幅は3.81m、下端幅は2.01mである。深さは47cmで断面形は皿



第 27 図 第 306 次調査区平面・断面図



第28図 第306次調査区断面図

状であり、壁は緩やかに立ち上がっている。堆積土は4層に分層された。粘土と砂が互層状に堆積していることから水成堆積と考えられ、特に下層は細砂を主体としていることから、一時的に水流が多かった可能性がある。遺物は出土していない。

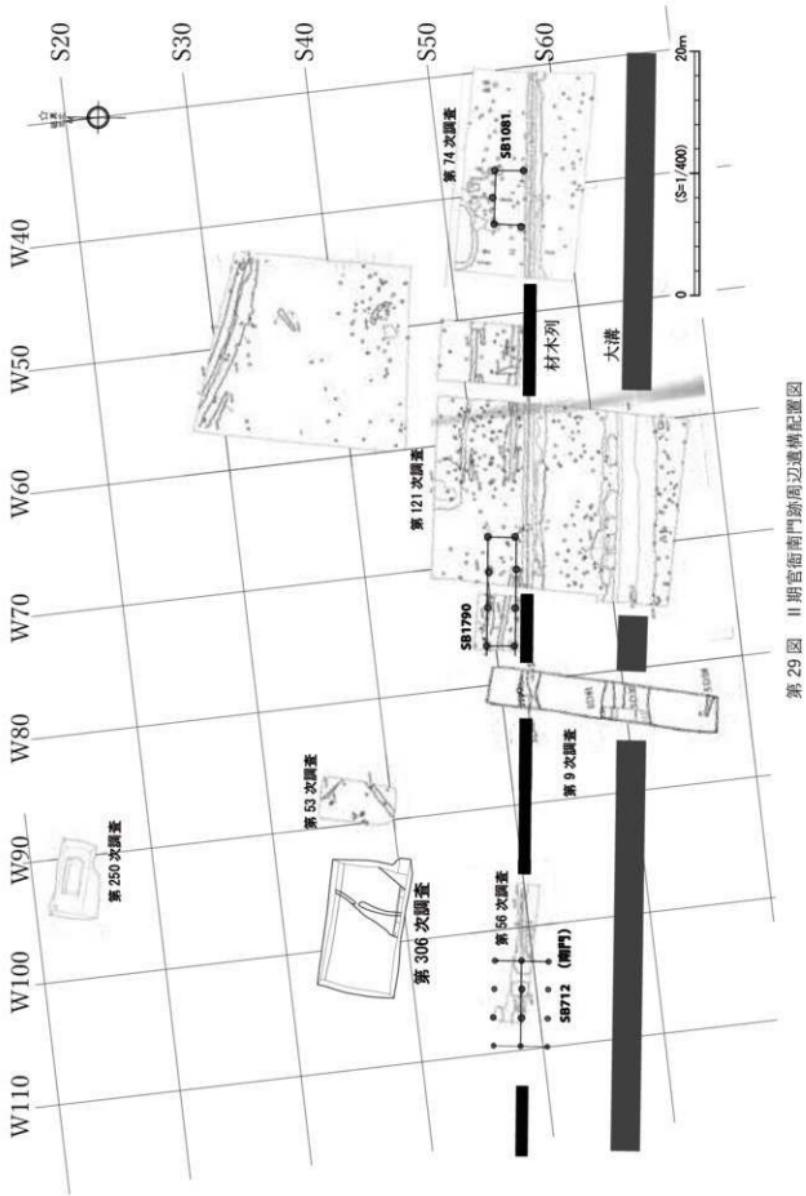
【SD2567 溝跡】

調査区の東部で検出された南北方向の溝跡で、調査区外へ延びる。方位はN - 15° - Eである。SD2566 溝跡と重複し、これよりも新しい。検出長は5.68m、上端幅は44cm、下端幅は14cmである。断面形状は皿状である。堆積土は単層で暗灰黄褐色粘土である。遺物は出土していない。

4.まとめ

今回の調査では南北方向の溝跡が2条 (SD2566・2567) 検出された。SD2566 溝跡からは遺物が出土しておらず、時期は不明であるが、堆積土に細砂や粗砂が多く含まれていることから、洪水等で水が流れ込んで形成された溝跡で、官衙との関連性はないと考えられる。

今回の地点は郡山遺跡方四町II期官衙の中央南地区に位置し、本調査区の南側ではII期官衙の南門が確認されており（第56次調査）、南門から延びる道路に関わる遺構の検出が予想された。しかし、調査区の壁面観察から、遺構面が宅地造成前の水田耕作で削平されており、道路跡など官衙に関わる遺構は確認されなかった。第29図は第306次調査区周辺の方四町II期官衙の遺構配置図である。今回の第306次調査では第121次調査B区と同様、II期官衙の建物跡などの遺構は確認されていない。これまでの調査で中枢部を構成する建物跡群と材木列跡の間では掘立柱建物跡や堀跡等の遺構が発見されていないことから、官衙の中で空閑地であったことが明らかになっている。今回の調査でも官衙に関連する遺構が確認されていないことから、南門から中枢部の建物群の間には空閑地が広がっていたと考えられる。今後も調査を継続することにより、II期官衙の空閑地の性格と官衙内の空間利用などについて解明する必要がある。



第29図 II期官衙南門跡周辺遺構配置図



1. 調査区全景（南から）



2. 調査区全景（東から）
写真図版 8 第 306 次調査 (1)



1. SD2566 溝跡確認状況（南から）



2. SD2566 溝跡断面（北から）



3. 調査区北壁・SD2566 溝跡断面



4. 調査区北壁断面



5. 調査区西壁断面



6. 作業風景

VI. 第307次発掘調査

1. 調査経過と調査方法

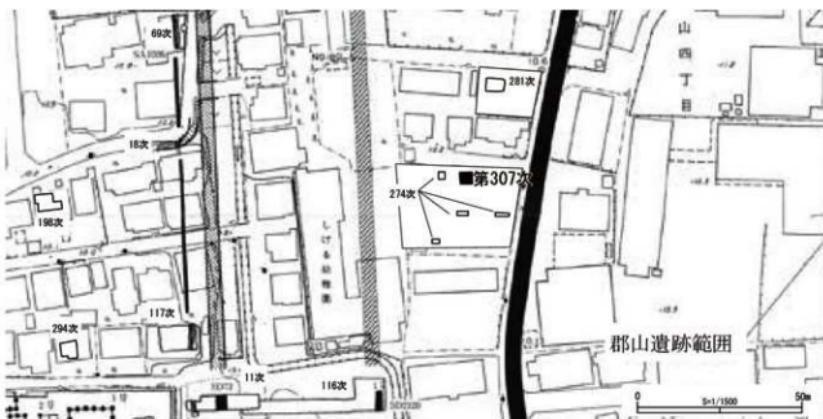
第307次調査は個人住宅建築に伴う発掘調査である。申請者より令和2年7月30日付で提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(令和2年8月3日付R2教生文第101-162号で通知)に基づき実施した。

今回の調査地点は、郡山遺跡東端部に位置し、平成30年度に調査が行われた第281次調査区の南側に位置する(第2・31図)。

調査は令和2年10月27日に着手し、建築予定範囲内東西4m×南北4mの規模で調査区を設定した。重機で盛土及びI~III b層を除去後、IV層上面(GL-1.1~1.4m)で遺構検出作業を行ったが、攪乱を確認したのみで、遺構は検出されなかった。調査の記録は調査区平面図(S=1/20)、断面図(S=1/20)を作製し、記録写真はデジタルカメラで撮影し、10月28日に複数回の転圧をかけながら重機で埋め戻しを行い、調査を終了した。



第30図 第307次調査区配置図



第31図 第307次調査区位置図

2. 基本層序

盛土の下に基本層を大別で4層、細別で5層確認した。盛土の厚さは20~125cmである。遺構検出面である基本層IV層までの深さはGL-1.1~1.4mである。I~III a層は耕作土で、III b層は耕作土III a層の母材と考えられる。

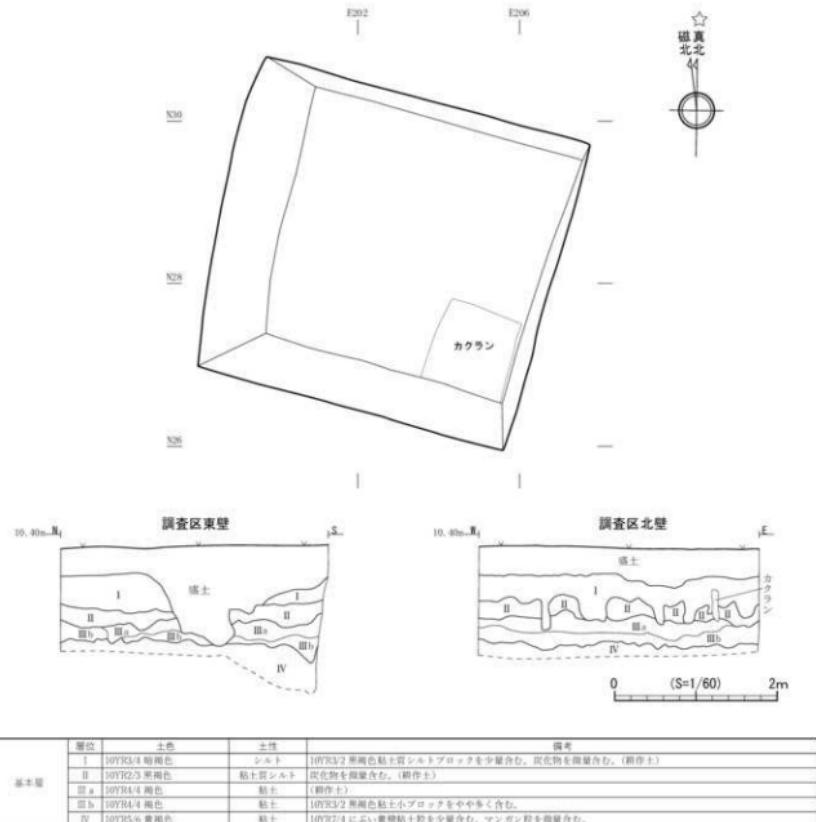
3. 検出遺構と出土遺物

今回の調査では、遺構は検出されなかった。遺物は基本層から土師器片が極少量出土している。このうち基本層III a層中から出土した土師器坏を図化した(第33図-1)。

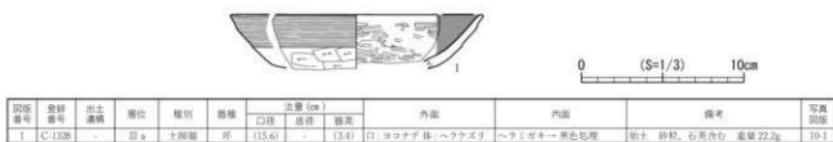
4.まとめ

今回の調査地点は、郡山遺跡の北東部に位置し、方四町II期官衙の外溝の東側に位置する。本調査区の北側では溝跡と土坑が検出されている第281次調査がある。今回の調査では、郡山遺跡における官衙の時期の遺構検出面

であるIV層上面で遺構は検出されず、出土遺物も僅少であった。調査から本調査地は遺構が希薄な場所の可能性が考えられる。



第32図 第307次調査区平面・断面図



第33図 第307次調査出土遺物



写真図版 10 第 307 次調査出土遺物



1. 調査区全景（西から）



2. 調査区北壁断面

写真図版 11 第 307 次調査

引用・参考文献

- 仙台市教育委員会 1981 「郡山遺跡 I」 仙台市文化財調査報告書第 29 集
- 仙台市教育委員会 1985 「郡山遺跡 V」 仙台市文化財調査報告書第 74 集
- 仙台市教育委員会 1986 「郡山遺跡 VI」 仙台市文化財調査報告書第 86 集
- 仙台市教育委員会 1997 「郡山遺跡 XVII」 仙台市文化財調査報告書第 215 集
- 仙台市教育委員会 1999 「郡山遺跡 XIX」 仙台市文化財調査報告書第 234 集
- 仙台市教育委員会 2000 「郡山遺跡 XX」 仙台市文化財調査報告書第 244 集
- 仙台市教育委員会 2001 「郡山遺跡 21」 仙台市文化財調査報告書第 250 集
- 奈良文化財研究所 2003 「古代の官衙遺跡 I 遺構編」
- 仙台市教育委員会 2004 「郡山遺跡 24」 仙台市文化財調査報告書第 269 集
- 仙台市教育委員会 2005 「郡山遺跡発掘調査報告書 総括編(1)」 仙台市文化財調査報告書第 283 集
- 仙台市教育委員会 2006 「郡山遺跡 26」 仙台市文化財調査報告書第 296 集
- 奈良文化財研究所 2010 「第 13 回古代官衙・集落研究会報告書 官衙と門 資料編」
奈良文化財研究所研究報告第 4 冊
- 仙台市教育委員会 2014 「郡山遺跡 34」 仙台市文化財調査報告書第 429 集
- 仙台市教育委員会 2016 「荒井南遺跡他発掘調査報告書」 仙台市文化財調査報告書第 446 集
- 仙台市教育委員会 2016 「仙台市震災復興関係遺跡発掘調査報告 II -平成 24 年度～ 26 年度震災復興民間文化財発掘調査助成事業に伴う発掘調査報告書-」 仙台市文化財調査報告書第 448 集
- 仙台市教育委員会 2017 「郡山遺跡 37」 仙台市文化財調査報告書第 460 集
- 仙台市教育委員会 2019 「郡山遺跡 39」 仙台市文化財調査報告書第 478 集
- 仙台市教育委員会 2020 「郡山遺跡 40」 仙台市文化財調査報告書第 484 集

第3章 調査成果の普及・関連活動

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により行事が中止となった学校も多く、一般の方の見学等も見合せる場合が相次いだ。また、緊急事態宣言により県をまたぐ移動の自粛もあり、県外からの資料調査および資料貸出も例年より減少した。それでも感染症対策を十分講じた上で実施できたケースもあり、実績を以下に記した。

<主な広報・普及・協力活動>

年月日	行事・活動等	担当	対象
R2.6.24	資料貸出（遺物）	庄子・元山	公益財団法人千葉県教育振興財団
6.26	出前授業	元山	仙台市立東長町小学校 6年生
7.15	資料貸出（写真）	佐藤（文）	公益財団法人千葉県教育振興財団
7.30	資料貸出（写真）	佐藤（文）	宮城県多賀城跡調査研究所
9.24	資料貸出（遺物・写真）	庄子・元山・佐藤（文）	多賀城市埋蔵文化財調査センター
9.28	美化活動（植栽）	工藤・元山・佐藤（文）	仙台市立東長町小学校 6年生
10.26～28	職場体験	元山・庄子	仙台市立郡山中学校 2年生3名
10.27	資料調査	元山	個人
11.5	職場体験	元山・庄子	杜のひろば・宮城野6名
11.11	出前講座	庄子	南小泉老壯大学（若林区中央市民センター）
11.17	出前授業	元山	仙台市立東長町小学校 6年生
11.19	郡山中学校ビロティ見学	佐藤（文）	個人
12.9	郡山中学校ビロティ見学	庄子	まちなか歩きたい
12.10	郡山中学校ビロティ見学	庄子	仙台市郡山老人福祉センター
R3.1.23	講座	長島	陸奥国分寺・薬師堂ガイドボランティア会
1.25	資料貸出（遺物）	佐藤（文）	仙台市立郡山中学校
2.16	出前授業	元山	仙台市立東長町小学校 6年生



小・中学生の職場体験（郡山遺跡）



小学生の美化活動（郡山遺跡）

報告書抄録

仙台市文化財調査報告書第492集

郡山遺跡 41

—令和2年度発掘調査概報—

2021年3月

発行 仙 台 市 教 育 委 員 会

仙台市青葉区上杉一丁目5-12

上杉分庁舎10F

文化財課 TEL 022 (214) 8863

印刷 毛 リ タ 印 刷 株 式 会 社

仙台市太白区郡山八丁目20-30

TEL 022 (246) 0105

